

2015年3月20日

於：本郷体育館

東洋学園理事長 江澤雄一

卒業式祝辞

東洋学園大学の卒業生の皆さん、そしてご両親やご家族の皆様、今日は本当におめでとうございます。本学の所要の課程を修了し晴れて卒業の日を迎えることができたのは、ご自分の努力もさりながら同時にそれを支援して下さったご家族のおかげであり、感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。この栄ある卒業式の日には私は本学の理事長として、一言お祝いを申し上げたいと思います。

卒業生の皆さんがこれから社会人としての一步を踏み出す世界は大きな変化の流れの中にあります。急速なグローバル化の進展で今や情報、人、物が世界中を駆けめぐり、否応なしに地球が一体化していきます。それは人類に進歩をもたらす反面、世界は競争の荒波にさらされることとなります。その一方で、日本は少子高齢化と人口減少が急速に進んでいきます。日本の人口は2050年には1億人を切るといわれており、日本社会の活力をいかに維持していくかが大きな課題です。このようにグローバル化と人口減少の進む時代に日本が世界の中で競争に勝ち、存在感のある国として発展していくにはどうすればよいのか、次の時代を担う若い皆さんにぜひ考えてほしいことです。

社会が発展する原動力は言うまでもなく人材です。日本は人口減少でその貴重な人材が少なくなっていくから、かつてのように物量作戦で労働力をふんだんに使う生産方式はもう成り立たないのです。これからは限られた人材をいかに有効に活用してより多くの価値を生みだし生産性を高めていくか、が問われることとなります。そのため、あらゆる分野でイノベーションを起こすことが必要であり、これまでの慣行にとらわれないで、独創力を発揮して新しいアイデアを生みだしていくことが重要になってきています。

しかし、これまでの日本の伝統文化は、農村を中心にしたムラ社会のなかでお互の融和、協調をはかり、一つの生活共同体として円満に運営されることに重点があったと思います。そこでは全体の流れに反する意見は歓迎されず、異端者は村八分にされてきました。また、近代日本の歴史をみても、欧米先進国に「追いつき追い越せ」の時代には、欧米のお手本があってその決った目標に向けて一生懸命働けばよいとされたわけです。そこでは組織の一員として、目標達成のため一致協力することが重要であり、あえて新しい発想を持ち込む必要はなかったのです。ひところKY（空気が読めない）という言葉がはやりました。グループ内の流れに沿って行動することが重要であり、それに反した独自の動きをすると仲間

はずれにされてしまうということです。

このような日本的風土の中で流れに掉さすことは容易ではありません。しかし、日本社会がこれから新たな発展をとげるためには新しいアイデアや発想を積極的にとり入れていかなければなりません。そのためには異なるバックグラウンドをもつ「人材の多様性」（英語でダイバーシティと言います。）を確保することが重要であるといわれるようになりました。最近では、グローバルに展開する企業は外国人を経営幹部に登用し、これまでの日本的な考え方にこだわらず、経営に外国人の視点を積極的にとり入れようとしています。また、安倍内閣は女性の登用を拡大することを重要施策として掲げており、管理職など指導的立場にある女性の比率を 2020 年に 30% にすることを目標にしています。女性の登用でこれまでとちがった発想が生まれ、経済社会が活性化することが期待されています。更に、株式会社は会社と直接の利害関係のない社外取締役を置くことが求められています。これは会社の方針を決めるに当って社内の考え方だけにとらわれず、社外の人々の意見を聞くことによって会社が新しい発展をとげることを期待しているわけです。

このようにビジネスや社会一般の流れは少しずつ変わってきているように思います。「追いつき追い越せ」の時代は終って日本が世界に伍して新しいアイデアを生みだし、独創的なイノベーションや積極的な起業家精神を発揮して、世界でリーダーシップをとっていくことが求められているのです。そこで若い世代の諸君に期待したいことは、これまでの枠組にとらわれず、自分の得意な分野は何か、自分は何をやりたいのか、をよく考えて、人とちがうことにも積極的にチャレンジする勇気をもってほしいということです。自分の個性をみがき、創造力を発揮していくことが新しい世界を切り拓き、自分自身を幸せにするばかりでなく、会社や社会にも貢献することになるのです。もっとも、自分の意見を主張する時には、自分と異なる意見に対しても寛容であることが必要です。いろいろな見方、考え方がたたかわされる中から最善の選択が行われるのであり、寛容の精神があつてこそ多様な意見が生きてくると思います。

卒業生の皆さんには沢山の可能性があります。きめられた軌道の上を歩くのではなく、自分の進む道は自分で選びとってほしいと思います。それが多様性、ダイバーシティをもたらし、日本の新しい発展につながっていくと信じています。

皆さん、ご卒業、本当におめでとうございました。